

淡路市 36品種約千本のブルーベリーを栽培している淡路市野島常盤の観光農園「ブルーベリーヒル淡路」が、4日にカフェ、12日にブルーベリー狩りの今季の営業を始める。ベンチャー企業を退職して

色づき始めたブルーベリーを管理する林田さん。いずれも淡路市野島常盤

会社員から転身 36品種1000本を栽培

「脱サラ」した男性が、荒れ地を切り開いて昨年オープン。2シーズン目を前に「自然に囲まれた場所です、いろんな品種を食べ比べて」とPRする。(上田勇紀)



林田雅行さんの観光農園

同農園を開いたのは、淡路市浦に住む林田雅行さん(43)。妻の寿々さん(39)とともに切り盛りする。大阪府出身で、北海道大学の大学院博士後期課程を修了してベンチャー企業に入社。だが、管理業務が増えたこともあって「やりたいことと違ふ」と感じ、現場での仕事を求めて3年前に40歳で退社した。

「会社員時代に『いい職業はないかな』と調べる中で、ブルーベリー農園経営の本を読んだ。農業経験はないけど、やれそうだと。それほど悩まなかった。妻、子どももふ人と一緒に、直近の勤務先だった徳島県から淡路市に移り住み、荒れた農地を借りてチェーンソーなどで開墾。栽培に挑戦した。

ブルーベリー 収穫期が到来



大福などカフェで販売するメニューを充実させる

あすからカフェ、12日から今季開業 「来場1000人目指す」

あわじ特急便

準備が整った昨年6〜8月、迎えた初めてのシーズン。新型コロナウイルス禍や雨の影響もあり、来場は神戸などからの計約300人にとどまった。「もったいなく感じる」と思った。けれど、シーズン後の管理も想像以上に大変で、体力を使った」と振り返る。

そして迎えた新シーズンではこれから、多彩な品種が次々と収穫期を迎える。果の皮が薄くジューシーで、6月中旬〜7月中旬が食べごろのものや、皮が厚く濃厚な味で、7月下旬〜8月中旬に実るものなど。また敷地にあるカフェでは、地元店と協力し、ブルーベリー大福などの新商品を販売。「来場千人を目指して頑張りたい」と静かに意気込む。

カフェ、ブルーベリー狩りとも8月下旬まで。午前10時〜午後4時。水曜定休。事前予約制で、入園料は中学生以上2千円、小学生1500円、4歳以上千円。同農園 ☎090・3788